

# 柱 II

## 経済のエンジン

プロジェクト

### 5

### エネルギー

### ～かながわスマートエネルギー計画の推進～

東日本大震災を契機に  
発電所で大量の電気をつくり、  
広域的な電力系統で送電する  
「集中型電源」から  
電気を消費する場所の近くで発電する  
「分散型電源」へ転換し、  
エネルギーの地産地消を実現する  
分散型エネルギーシステムの構築が  
求められています。  
そこで、再生可能エネルギー等の  
導入加速化やスマートコミュニティの  
形成などに取り組み、  
地産地消の新しいエネルギー体系を  
確立します。



- ▶ 再生可能エネルギー等の分散型電源の導入加速化
- ▶ 省エネルギーの促進とスマートコミュニティの形成
- ▶ 地産地消の新しいエネルギー体系の確立



## 具体的な取組み

### A 再生可能エネルギー等の導入加速化

- 太陽光発電の導入を加速化するため、相談などに応じるかながわソーラーセンターの運営、「屋根貸し」太陽光発電事業の普及促進、フィルム状の薄膜太陽電池の市場創出などに取り組みます。
- 多様な再生可能エネルギーの導入と地産地消を図るため、小水力発電、小形風力発電、太陽熱及び地中熱などの導入促進に取り組むとともに、県営電気事業の新たな売電方法を検討します。

主な取組内容	2015	2016	2017	2018
<b>太陽光発電の導入加速化</b> 実施主体   県、市町村、民間		薄膜太陽電池普及拡大プロジェクトや普及啓発などの実施		
<b>小水力発電や小形風力発電などの導入促進と県営電気事業の新たな売電方法の検討</b> 実施主体   県、市町村、民間		モデル的な導入支援や普及啓発などの実施、新たな売電方法の検討		

### B 安定した分散型電源の導入拡大

- 発電出力が安定しているガスコージェネレーションなどの効率的な利用を図り、導入を拡大するため、生産した電力や熱を近隣施設へ融通する設備の整備促進や普及啓発などに取り組みます。
- 水素エネルギーを日常の生活や産業活動で利活用する「水素社会」の実現に向けて、燃料電池自動車（FCV）や水素ステーションなどの導入促進や普及啓発などに取り組みます。

主な取組内容	2015	2016	2017	2018
<b>ガスコージェネレーションなどの導入拡大</b> 実施主体   県、市町村、民間		モデル的な導入支援や普及啓発などの実施		
<b>水素エネルギーの導入促進</b> 実施主体   県、市町村、民間		燃料電池自動車（FCV）などの導入支援や普及啓発などの実施		

### C 省エネルギーの促進とスマートコミュニティの形成

- 事業者や県民の省エネ・節電意識の向上と取組みの促進を図るため、温暖化対策計画書制度の運用、環境学習・教育、エネルギーを管理するシステムの普及などに取り組みます。
- 電力系統などに頼らないエネルギー自立型の建築物や住宅の実現を図るため、ネット・ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB）やハウス（ZEH）の導入促進や普及啓発などに取り組みます。
- スマートコミュニティの形成とあわせて、エネルギーの地産地消を図るため、電力システム改革を見据え、官民連携による新たな電力供給システムの整備促進や普及啓発などに取り組みます。

主な取組内容	2015	2016	2017	2018
<b>事業者や県民の省エネ・節電意識の向上と取組みの促進</b> 実施主体   県、市町村、民間		温暖化対策計画書制度の運用や環境学習・教育などの実施		
<b>ZEBやZEHの導入促進</b> 実施主体   県、市町村、民間		モデル的な導入支援や普及啓発などの実施		
<b>官民連携による新たな電力供給システムの整備促進</b> 実施主体   県、市町村、民間		モデル的な整備支援や普及啓発などの実施		